

A photograph of a large industrial facility, likely a recycling or processing plant. The scene is dominated by a massive, light-colored conveyor belt system that curves from the left side of the frame towards the center. In the foreground, a red and black forklift is positioned near a large yellow drum. To the right, there are several more drums and some stacked materials. The building has a high ceiling with multiple circular lights. On the far left, a person wearing a blue jacket and jeans is visible, standing near some equipment. The overall atmosphere is one of a busy industrial environment.

プラスチックリサイクルなどを手掛ける工場（本社・埼玉県富士見市、後藤雅晴社長、電話049-265-8390）は10月をめどに、同社の「綾瀬リサイクルセンター」（神奈川県綾瀬市）にペレタトに加工して付加価値を高めることにした。

新たにペレタイザー導入へ

工
文
口

PE、PPの再生高度化 壁紙リサイクルも順調

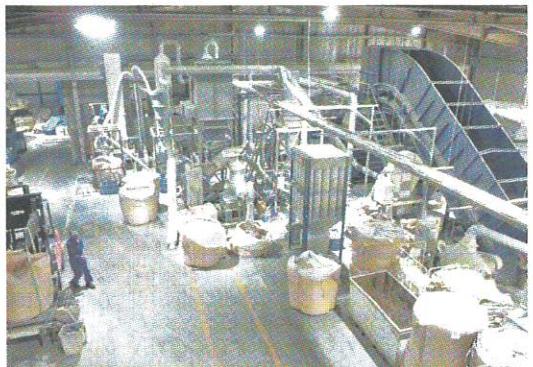
中国が2013年に
グリーンフェンス政
策を施行し、いわゆる
「雑プラス」への輸入規
制が厳しくなったこと
などをきっかけに、対
象樹脂を硬質のPEと
PPに絞り込み、排出

工、約70ト出

のフレークを加
け、中国のプラ
クスクラップな
挿入規制強化で、
のさまざまな事
が再生ペレット製
造り出している

化する事
度、壁紙・
オフセッ
生プラ原
に提供す
業を提案
在試験を

業でも顧客が
る。カーボン
トに資する再
ユースとして再
生材メーカー
の循環型の事
業をしており、現
重ねている。



が、プラスチックの知見が少なく、「ペレットの形をした低グレード品」が再生ペレット輸出にも影響を及ぼしている。これに対して同社は、国内メーカーを主にフレークを出荷してきた実績があり、新たな再生ペレット加工でも日本の品質基準を標準にして海外動向に左右されない事業を目指す。

一方、叩解法で塩ビ壁紙を再生プラスチック原料と分離した紙による猫砂向けに再資源化する事業でも顧客が増えている。カーボンオフセットに資する再生プラス原料として再度、壁紙・床材メーカーに提供する循環型の事業を提案しており、現在試験を重ねている。